

中学校の歴史と公民教科書

大阪市が育鵬社版採択

大阪市教育委員会は5日、来年度から4年間、市立中学校で使用される歴史と公民の教科書に侵略戦争を美化し、改憲を誘導する育鵬社版を賛成多数で採択しました。歴史、公民とも同市での育鵬社版の採択は初めてです。

この日の教育委員会

会議では、歴史、公民とも6人中4人の委員が育鵬社の採択に賛成しました。また、「過去の歴史や現在の政治・経済・社会に関して異なる視点や多面的な見方を知ることが主権者の育成に資する」として二番目に評価が高かった帝國書院の歴史教科書、

日本文教出版の公民教科書を補助教材として使用できるよう調整を図るとする付帯決議を5委員の賛成で採択しました。

見解を一方的に押しつける内容について一切ふれないもので、保護者や市民の納得は得られないと批判。付帯決議は「育鵬社教科書に対する市民的批判が生み出した矛盾」と指摘

し、「危険な教科書を子どもたちに渡してはならないとの合意を広げ、保護者・市民と共同して子どもと教育を守る取り組みを引き続きすすめていく」と表明しています。

市民が抗議「おかしい」

大阪市教育委員会

た。

議の傍聴会場となった

小川律子さん(64)

大阪市教育センターで

同市西成区は「傍

は、育鵬社版の教科書

聴者を排除して決める

採択について、傍聴者

のはおかしい。市民だ

から「えー」「おかし

けでなく教育に関わる

い」と声が上がりまし

先生や保護者、子ども

たちの声が反映されていない」と憤りました。

傍聴後、会場近くの

JR弁天町駅前で市民らが緊急の抗議宣伝を行いました。

大阪市学校園教職員

組合の宮城登委員長は

「侵略戦争を美化する

育鵬社版の教科書は、

過去の戦争を間違った

戦争と認めない安倍首

相の主張をそのまま書

いたような教科書だ」

と強調。採択に強く抗

議するとともに、「危

険な教科書」を中学生

にわたしてはならない

の声をともに上げよう

と訴えました。



育鵬社版の教科書採択に抗議する市民ら5日、大阪市

大阪市教委による侵略戦争美化の

教科書採択について

日本共産党大阪府委が談話

大阪市教育委員会が5日の教育委員会会議で、2016年度から使用する中学校社会科教科書について、侵略戦争を美化する歴史・公民教科書（育鵬社版）を採択したことについて、日本共産党大阪府委員会の小林裕和・文教委員会責任者は同日、次のような談話を発表しました。

一、安倍政権が憲法 存自衛「アシア解放」違反の戦争法案を推進 のためと描き、「日本し、橋下・「維新政治」 は正しい戦争をした」のもとでの採択です。 と教えるものです。公この歴史教科書は、 民教科書は、侵略戦争日本の侵略戦争を「自 を肯定する立場から、

憲法9条の戦争放棄を「異例」と述べ、改憲を必要だと思わせるものです。

こうした教科書を選ぶことは、憲法と子どもの権利条約の立場から許されません。

私たちは、侵略戦争を美化し、改憲を必要だと思わせる教科書の採択に厳しく抗議し、採択の撤回を強く求めます。

一、学校で使用する教科書は、それぞれの

地域での子どもの実情を考慮し、教科の専門性をもつ教員が調査・研究して選ぶことが大切です。

教育委員会による教科書採択は、こうした学校での調査・研究結果にもとづく教員の意見を尊重し、保護者や住民の意見をきちんとふまえることが必要です。

一、日本共産党は引き続き、広範な市民・教育関係者のみなさんと力を合わせて、戦争法案阻止のたたかいと結んで、「戦争する国」づくりの教育に使う教科書を子どもたちの手に渡さないために、取り組みを進める決意です。